

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立佐良山小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成」
 考える子
 思いやる子
 やりぬく子

今年度の指導の重点

1. 自ら主体的に学び、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。
2. 特別支援教育の充実を図る。
3. 命や人権を大切にすることを育成し、心豊かな人間性を育む。
4. 家庭や地域社会との連携を密にし、安全安心で開かれた学校づくりに努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小・中学校)

国語、算数とも、県平均と比べると正答率が低かった。
 算数Aの「数と計算」領域は、県平均の正答率より若干高いが、「量と測定」領域では知識・理解の面で課題がある。
 (例) 9 - 0.8 を計算する: 本校90.3% (全国83.8%)
 国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域については、全国及び県平均を大きく上回っているが、「話すこと(聞くこと)及び「書くこと」の領域では大きな課題がある。
 (例) 大野さんの発言にし、手書きの立場から質問か意見を書く: 本校12.9% (県26.5%)

県(中学校)

国語、数学、社会、理科とも、正答率が県平均を少し下回った。
 国語の「漢字の読み」については、県平均を若干上回っているが、その他の内容は課題が多く、特に活用型の問題に苦手意識を持っている。(例) 物語の内容を読み取る: 本校23.7% (県32.3%)
 社会科では、歴史や「資料の活用」の分野で県平均を若干上回っており、「社会科が好き」と回答した割合が昨年度よりも増えた。(例) 日本の外交の歴史: 本校72.6% (県69.2%)
 理科では「魚の誕生」「植物の成長」の内容で県平均を若干上回っているが、「物質・エネルギー」の領域で正答率が低かった。

【学習状況調査の結果】

平日にテレビやゲームを2時間以上する児童の割合は県平均よりかなり少ない。
 平日に家庭学習を全くしない児童の割合が県平均に比べて少ない。
 土曜日、日曜日に全く家庭学習をしない生徒の割合が県平均より高い。
 日頃から授業の予習、復習をする児童が少ない傾向にある。
 「あいさつをよくする」「地域の行事に参加する」児童生徒の割合が県平均よりかなり高い。
 礼儀正しく、協調性も豊かであるが、自己肯定感がやや低い傾向にある。
 「読書は好きだ」という項目に肯定的な児童生徒が多い。
 学校の授業時間以外で図書室を定期的に利用する生徒が少ない。
 「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒の割合が県平均に比べて低い。
 「先生は良いところを認めてくれる」と回答した児童の割合が県平均よりも少ない。
 「学習が好き」と回答した児童生徒の割合が県平均よりも高く、特に算数が好きな児童生徒が多い。
 授業の中で「話し合う活動をよく行った」と回答した児童の割合が県平均より低かった。

成果と課題

国語、算数ともに記述式の問題に苦手意識を持っており、無回答率も高い。
 国語、算数、理科においては、基礎的な問題よりも活用型の問題を苦手としている。
 算数で理由を説明することを苦手と感じる児童が多いが、算数が好きな児童の割合は、全国平均より15%以上高い。
 作文に書いたり感想文を書くことを苦手と思う児童は少ないが、自分の意見を発表することが苦手な児童が多い。
 ノーメディア週間に取り組んだ成果が現れ、テレビ等の視聴時間が減った。しかし、ニュース番組をよく見る児童の割合も県平均より16%低いことがわかった。
 平日の家庭での学習時間は改善されつつあるが、土日の学習時間が少ない傾向にある。特に「土日に家庭学習を全くしない」と回答した児童の割合は県平均よりも7%高い。
 真面目で規範意識が高いが、「自分によいところがあります」と回答する児童生徒が県平均より少ない。
 「学習が好き」と回答した生徒の割合は、4教科とも県平均より高く、特に理科は昨年度より17%も増えた。

課題に対応した改善方法

1時間の授業の中で、前時の復習や「めあて」の提示から授業の「まとめ」「ふりかえり」までの流れを徹底する。
 すべての教科で、考える時間や書く時間をしっかりと確保する授業プランを立てる。
 朝の学習の時間を大切にして、漢字や計算の小テスト、フラッシュ教材による反復トレーニング等を積み上げていく。
 補充学習(佐良山タイム)や放課後学習等を利用して、個に応じたきめ細かな指導を行う。
 学力テストの問題を教材として活用したり、類似問題や到達度確認テストを計画的に活用したりする。
 「読書大好きさくらまつり」をめざし、読み聞かせや読書カード等を利用しながら、読書の質と量(年間100冊以上読破)を増やす。
 土日の学習時間を増やすための、宿題の内容直しと家庭への啓発を強化する。
 ボランティアな等地域の貴重な人材を活用して、補充学習の際の個別指導や様々な学習支援の取り組みを充実させる。
 家庭の協力を得ながら、学習時間や情報モラル等のルールについて考え、家庭学習習慣の確立を図る。
 スマートフォン携帯電話は午後9時以降においては保護者が管理するようPTAと連携して取り組む。

取組の検証方法及び検証時期

小5に学力定着状況たしかめテストの実施(11月)
 児童生徒へのアンケートの実施(学期ごと)
 「家庭学習の手引き」「自主学習の手引き」活用
 自主学習ナンバーワンの表彰(毎月)
 計算・漢字単元確認小テストの実施(毎月)

達成目標(数値目標)

「学習が好き」と多く回答している算数・理科の平均正答率で県平均を上回る。
 基礎的な計算・漢字の小テストで9割以上の達成率をめざす。
 土日に家庭学習を全くしない子の割合を0に近づける。
 「人前で説明することが苦手」と回答する児童の割合を5%以上減らす(現在35.5%)
 図書の本の貸し出し冊数を年間100冊以上にする。(昨年度73冊)
 平日に自主学習を行う児童の割合を80%以上にする(前年度72%)